

乳腺外科

当科は

「地元で安心して受けられる乳腺診療」
を目指しています

1. 当院乳腺外科の特色

2024年5月より、常勤1名・非常勤1名の乳腺専門医が、乳房のさまざまな症状(しこり、痛み、分泌など)や乳癌を中心とした乳腺疾患全般に対する診療を行っております。

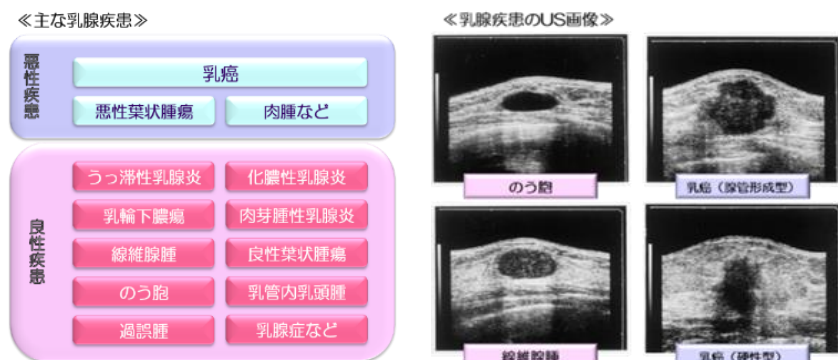
安心して診療を受けて頂けるよう、ガイドラインに沿った『標準化治療』と一人ひとりに寄りそう『個別化治療』の両立を心がけ尽力して参ります。

2. 乳腺疾患について

乳腺疾患の代表ともいえる乳癌ですが、その罹患数は年々増加し続けており、2019年の全国統計では97000人を超え、生涯罹患リスクは10.6%(=日本人女性の9人に1人)となりました。

乳腺に生じる疾患には良性のものも多く存在しますが、実臨床では良悪性の判断が難しいこともあります。

乳房・乳腺に関する症状や所見などを認めた際には、ぜひお気軽にご相談ください。



3. 乳癌の診療

乳癌の治療方針は、癌の進行度やサブタイプ分類、閉経状態や年齢などの医学的診断を基に、個人の価値観や生活リズムなどを総合的に考慮し決定していきます。

複数の治療法を組み合わせるおこなうことが一般的ですが、当院では専門の医師・看護師・薬剤師などの担当スタッフが協働し、一人ひとりに寄りそう治療方針をご提案できるよう心がけております。



4. 乳房再建について

乳癌治療において大きな節目となる手術療法に関しては、癌に対する適切な治療を行うことが最優先にはなりますが、手術創が目立ちにくい皮膚切開(乳輪切開・乳房下縁切開)や乳輪乳頭の温存、形成外科と協同して行う乳房再建術など、日常生活や美容面において個々の希望に可能な限り応えるような術式の検討が可能です。

特に乳房再建に関しては、形成外科井上医師の就任により術式や手術時期など更に幅広く対応することができるようになりました。

乳癌手術と同時に進行一次再建や乳癌手術後に一定期間経過してから行う二次再建、また人工物や自家組織を用いた再建など、乳腺外科専門医と形成外科専門医が連携して施行しております。

《乳房再建の分類》

一次再建	乳癌手術と同時に行う
二次再建	乳癌手術後に一定期間経過してから行う

自家組織再建	自分自身の組織(脂肪や筋肉)を使う
人工物を用いた再建	ティッシュエクspander(組織拡張器)や プレストインプラント(シリコン製人工乳房)を使う

5. BRCA 遺伝子検査について

遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)の原因となるBRCA1/2遺伝子の病的変異(バリエーション)ですが、PARP阻害薬の適応拡大に伴い、転移再発乳癌症例だけでなく一定の条件を満たす早期乳癌症例に対しても、保険適応での検査が行えるようになりました。

《HBOC診断目的》

- ・45歳以下の乳癌
- ・60歳以下のTNBC
- ・両側または同側2個以上の原発乳癌
- ・卵巣癌、卵管癌、腹膜癌の合併
- ・第3度近親者内に乳癌、卵巣癌
または膀胱癌の家族歴
- ・男性乳癌

《コンパニオン診断目的》

- ・HER2陰性の再発高リスク乳癌で
オラパリブ投与が検討される場合

《陽性の場合》

- ・遺伝カウンセリング
- ・オラパリブ治療
- ・リスク軽減手術
- ・適切なサバイランス

6. 当院の治療方針

「ティッシュエクspanderおよびプレストインプラントを利用した乳房再建」および「BRCA 遺伝子検査」を行うために必要な施設認定を当院でも取得しております。

日進月歩の乳癌診療において、個々の症例に対して適切な治療方針を決定していけるよう、『標準化治療』と『個別化治療』の両立を目指しておりますので、ご不明な点などございましたらいつでもお声がけください。



大森赤十字病院

赤十字は、動いてる! 日本赤十字社